

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は思わぬ災害に見舞われ、大変な年となりましたが、今年は皆さんと一緒に良い年にしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、わが園では、期ごとに保育反省を行ない、また、毎日の保育日誌等の記録を通して、子どもの育ちを職員みんなで共有するように心がけていますが、今回はそんな中から、少しご紹介させていただきます。

Hちゃんが、珍しく（初めて？）お昼寝中におねしょをしてしまったときのこと。保育者がシャワーをして、体を拭いてあげていると仲良しのMちゃんがやってきて「おしっこ？」とHちゃんに訊ねました。Hちゃんは、少し涙目になりながら「ちがう、汗かいたの・・・。」と答えていました。

お昼寝から起きてきた子どもたちも、テラスで体を拭いてもらっているHちゃんを見て、次々に（決して、どの子も悪気があったわけではなく、見たままに）「おしっこ～？」と訊いていました。すると、そばにいたMちゃんが、すかさず「ちがうよ、汗かいただけだもんね～」と周りの子たちに言ってくれ、Hちゃんに対しても「汗かいちゃったもんね～」と書いていました。

Hちゃんの今にも泣き出しそうな雰囲気から、Hちゃんの気持ちをしっかり感じ取ることができたからこそそのMちゃん言葉だったのだろうと感じました。

Hちゃん表情を見て、即座にHちゃんの気持ちを察して、HちゃんをかばってくれたMちゃん。友だち関係の深まりと同時に、思いやりの心が成長しているなあと感じます。

また、数年前には、こんなこともありました。（上の事例を見て思い出した事例です。）

午睡の前に保育者に「おしっこ行ってくる」といってトイレに行ったSくん、なかなか部屋に戻ってこないの、ちょうどテラスに出ようとしていたKちゃんに、「トイレにSくんいるか見てきて」と声をかけるとKちゃんは「うん」と答えて様子を見に行ってくれました。しばらくしてKちゃんが戻ってきたので、「Sくんいた？」と聞くと、Kちゃん「おらしたよ」と言って部屋に入ってきました。

保育者がブロックコーナーで他の子と遊び始めると、KちゃんがSくんの着替えカゴから、すばやく着替えを持っていくのが見えました。保育者（あれ？もしかして、Sくん、おもらししてたのかな。）と思い、そっとトイレの様子を見に行くと、KちゃんがSくんの着替えを手伝っていました。やっぱりSくんは、間に合わずにおもらしをしてしまっていたようです。

Kちゃんが最初に部屋に戻ってきたときにSくんのおもらしのことを保育者に伝えなかったのは、Sくんの気持ちを気遣ったことだったのでしょうか。だから、敢えて二人には声をかけず、後でこっそり棚から汚れた服を取り出して洗っておきました。Sくんの思いを汲み取ろうとするKちゃんの姿にとても感心しました。

わが園には、おもらしをしたからと言って叱るような保育者はいません。それなのに、Kちゃんは保育者には伝えず、そっとSくんの着替えを持ち出し、Sくんの着替えを手伝ってあげました。「Sくんが叱られないように」ではなく、Sくんの「おもらしをしてしまって恥ずかしい、だれにも知られたくない」という気持ちにしっかりと気付いてあげることが出来たからこそそのKちゃんの姿だったのだと思います。

私たち大人は「子どもを育てる」といったときに、「〇〇ができるように」など、目に見える表面的な成果にとらわれがちですが、こうした、人として、最も大切な「内面の心の育ち」にもっと目を向ける必要があるのではないかと考えています。

こうした姿を見逃さずに、しっかりと記録に残してくれている保育者たちもまた、素敵な保育者たちだなと実感します。